

## 長良川鉄道

7月23日に長良川と「長良川鉄道」と題してレポートした。そこに当時の国鉄越美南線「深戸」駅、斐太高校から郡上高校への「転校」のことも書いた。それから3週間ほど経ち、このレポートを読み「ひょっとして、山田ではないか」と問い合わせメールがあった。信州大学時代の学友からだ。40数年ぶりになるだろうか。こうしてレポートを毎朝書き続け、ウェブサイトアップしてもらっていることのお陰だ。励みになる。

その後、旧友とはメールで情報交換などしている。郡上のことなど、懐かしく貴重な情報をもらえ喜んでいる。文春オンライン5月号「ルポ地方は消滅しない 9 岐阜県長良川鉄道」を送ってもらい、じっくり読んだ。抜粋して紹介したい。



全長166キロメートルの長良川は、大日ケ岳に源流を發して伊勢湾に注ぐ。その最も美しい中流を、右に左にまたぎながら走るのが第三セクターの長良川鉄道、略称「長鉄」だ。岐阜県美濃加茂市の美濃太田駅から同県郡上市の北濃駅まで、72.1キロメートルを38駅で結ぶ。始発の美濃太田ではJR高山線などと接続するものの、終着の北濃から先に鉄路はない。



「田舎」を走る行き止まりの路線。御多分に洩れず赤字経営だ。いつ廃線になるとも限らない。そこで長鉄は勝負に出た。12両しか保有していない車両のうち、2車両を観光列車に改造したのである。「ながら」と名付け、2016年4月27日に運行を始めると予約が殺到した。じり貧の生活路線を、観光という目で見ると、意外な活路があった。

デザインはJR九州の観光列車「ななつ星 in 九州」などで注目されている水戸岡鋭治さんが担当した。岐阜県産の木材をふんだんに使った内装で、沿線の特産品展示コーナーも設けている。車体は深い赤。長良川の青と、山々の緑に囲まれて、走り抜ける姿が印象的だ。

「ながら」は運行開始から12月末までの乗車率が98.5%とほぼ満席だった。3月末までに全国から計2万人が乗車し、約2千万円の純利益を上げた。2両の改造費は6千万円。7割は国の補助を受けたので、自己資金の1800万円を借金した。「これを5年間で返す予定にしていたのですが、なんと借金を返しておつりがくるほどの黒字になったのです」と坂本桂二専務(69)は驚く。

長鉄には応援団がいる。「ちびまる子ちゃん」で有名な漫画家、さくらももこさんだ。郡上八幡を舞台にした「GJ8 マン」というアニメをネットで配信しており、そのエンディングでは、さくらさん作詞の「長良川鉄道の夜」という曲が流れる。

無人駅の深戸駅（郡上市）では地元の農家、高橋廣喜さん（66）らが昨年11月から、毎週日曜日に朝市を始めた。伝統野菜の深戸ネギなど農産物を並べる。同駅舎には喫茶店があったが、13年に閉店した。「かわりに少しでも人が集まれるようにと思って」と高橋さんは話す。路線バスが廃止された深戸では、鉄道が中高生の最後の通学の足だ。

応援団がいる。小さな取り組みも始まった。黒字列車も走り出した。それでも全体の赤字構造に変わりはない。15年度の経常赤字は約1億6千万円で、16年度も劇的には変わらないという。通学客はこの10年で4割以上減っており、そのダメージの方が「ながら」の収益よりはるかに大きいのだ。

「でも、今回の自信は次につながるはず」と坂本さんは期待する。「ながらのブームは5年も持たないでしょう。だから今から『次』を仕掛けなければなりません。その時に『やればできる』という若手社員の自信が必要なんです」。仕掛けが続く限り、線路も続いてほしい。

（2017年8月27日）